

「多摩かるた」完成

「観光資源にもなれば」

羽村の伊藤さん

羽村市羽東の伊藤章裕さん(47)は、このどもたちが遊びながら「多摩かるた」(1200円)を完成させてくれたら」と話している。伊藤さんは一地元市生沼出身。南秋留小、



秋多中、都立砂川高校、駿河台大学を卒業後、コンピュータ音楽制作やシステム開発の会社を経て30歳のときに独立。現在は立川市内で「アイティーエムクリ

エイト」を経営する。自閉症を持つ息子の渓さん(現在22)と一緒にドライブをするのが伊藤さんの休日の楽しみで、多摩地域の歴史

史スポットや神社、観光地を巡り、各地の写真を撮影してきた。「もともと自分が歴史好きで、息子と車で多摩の史跡や名所を訪ねるのがとても楽しい。歴史や地理を掘り下げると、多摩川の流れで崖が生まれて神社が崖に並んでいる意味や、いろいろな場所に北条氏照の影響がみられることも分かってきます」と話す。

2018年の秋、足を伸ばして群馬県の四万温泉に出かけたとき、観光地にあった「上毛かるた」に目が止まった。「これは面白い、自分でも多摩を紹介するかるたを作ってみたい」とひらめき、撮影してきた写真を整理したり再撮影したりし、読み札を考えるようになった。「かるたで地域の魅力を紹介します」と思うと、とてもわくわくしました。読み札はイメージがどんなかわいて、数日で作成が完了しました」と笑顔。

伊藤さんは、昭和初期に当時の西多摩村(現羽村市)で製糸業を営み村議も務めた羽村春市さんが制作した「奥多摩いろは歌留多(かるた)」を参考に、春市さんの孫でこのいろは歌留多を復刻した羽村伊左雄さん(70、同市羽加美)の助言も受けて「多摩かるた」を完成。デザインは市内の印刷会社アサヒが担当した。

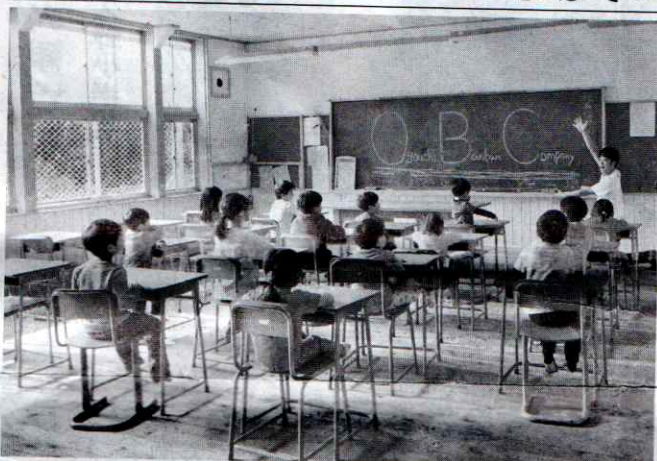
読み札には市町村名をなるべく入れないようにつづ、まんべんなく多摩全域を網羅した。絵札の写真は、観光スポットや河川、駅から電車まで、多摩に住んでいる人なら必ず身近に感じられるように、こだわった。かるたに紹介した場所をマップに落とし込んで、専用サイト(<http://yamakaruta.jp>)から見ることができるようにも。

「糸」の絵札は武蔵村山地域伝承の巨人のねぶたの写真で、読み札は「えんにちはなやぐデエダラまつり」。まだ歴史の浅い村山デダラまつりを紹介している。「し」の札は「しゅうでんはやいよれば」と伊藤さん。かるとは羽村市観光協会、福生市本町の飲食店「ごしま」で販売中。問い合わせは伊藤さん(042-512-5845)へ。

だ。年ぶりの同業者に、Cキッ校を影を(41)担当ドロー合写書は校り、げたいとも影を校舎生動に歩

にたま日和

114 榎本 まき



廃校舎内で撮ったワンシーン

OBCライブ、1年ぶりに披露 廃校舎で撮影会を実施

駒野 OBC

奥多摩町小河内地区 真代表)は12月12日、活動する町おこし団体「Ogouchi Banban Com pany(オゴウチパンカンパニー)」(以下OBC、酒井卓

に歩 め、動 生動 校舎 影を とも げたい とも 影を 校舎 生動 歩